

欧州のバイオ燃料事情



BTL に力を入れる欧州の石油会社(その1)

大型の燃料製造プラントは製油所に隣接して

ドイツの Choren Industries が 4 月 17 日に、BTL(Biomass-to-Liquids)の実証プラント(製造能力 300 bpd)の建設工事の終了を盛大に祝いました。

同プラントがあるザクセン州のフライベルグに、ドイツの Merkel 首相、同社に出資している Royal Dutch Shell、Daimler および Volkswagen のトップなど大勢の関係者が集まりました。

まだ「モノ」だけです

「BTL 燃料を製造するのは 8~12 カ月も先」(2008 年 4 月 17 日、<http://www.shell.com>)です。

なぜ、試運転の前に早々とお祝いなのでしょう。

次の段階に進む節目が必要だったからだと思います。

Choren Industries はこの機会を捉えて、本格的な商業生産を行なう大型 BTL プラント(製造能力 4,000 bpd)の建設予定地を発表しました。

同社は、2020 年までに国内外の 10~15 カ所に大型 BTL プラントを建設する計画で、その第 1 号をブランデンブルク州の Schwedt に建設することにしました。

かなり前ですが同社は、「大型 BTL プラントはフォアポンメルン州の Greifswald 近郊の Lubmin 原子力発電所の跡地に隣接して建設する」(2004 年 10 月 22 日、[ddp.vwd Wirtschaftsdienst](http://ddp.vwd.wirtschaftsdienst.de))と発表していました。

ところが 1 年ほど前に、「2 カ所を検討している。候補地の決定は数週間後」(2007 年 2 月 28 日、[Reuters News](http://reuters.com))と報道され、同社は既に Schwedt に傾いていました。

Schwedt には

原油処理能力 219,000 bpd の製油所があります。

Shell Deutschland Oil が 37.5%、Ruhr Oel が 37.5%、Total Deutschland と AGIP Deutschland の合弁会社 AET-Raffineriebeteiligungsgesellschaft が 25%を出資している PCK Raffinerie が操業しています。

余談ですが、この製油所へのロシア産の原油の供給が 2007 年 1 月に停止されました。

ご記憶かと思いますが、ロシアからベラルーシ共和国を通過して欧州に原油を輸送するパイプラインの送油が突然停止された事件です。

話を戻して、Royal Dutch Shell の FT 技術を採用した大型 BTL プラントが、この製油所に隣接して建設されます。

製造された燃料油は、2005 年 8 月に Choren Industries の少数株主になった Shell Deutschland Oil が引き取り、販売します。

なお、同製油所は、エタノール製造プラントおよび ETBE 製造プラントがあることでも知られています。

ひとこと

BTL の最大の課題は原料です。

当面は、森林の廃材などを用いるとしても、将来、「BTL の生産量を拡大するためには、ヤナギやススキなどの栽培量を増やす必要がある」(2008 年 5 月 12 日、Petroleum Review)と、Choren Industries の Blades 最高経営責任者が語っています。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニューズワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)